

20
17
聖徒伝 46

「契約の主 に導かれて」

民数記31～36章

約束の地を前に・土地の分割

民数記 ©

【今日のアウトライン】

0. ふりかえり

I. ミディアン人との戦い 31章

II. ヨルダン川東岸の相続地 32章

III. 荒野の40年 回顧と警告 33章

IV. 相続地の分割 34章

V. レビ人の町 逃れの町 35章

VI. 相続の補則 36章

VII. まとめと適用

約束された恵みの前味

今この時から味わおう!!



【アブラハム契約とは？】

聖書全体を貫く、大原則

神の世界回復と人類救済計画の柱

【三つの主な条項】

①子孫の約束

②土地の約束

③祝福(地上の諸民族の祝福)の約束

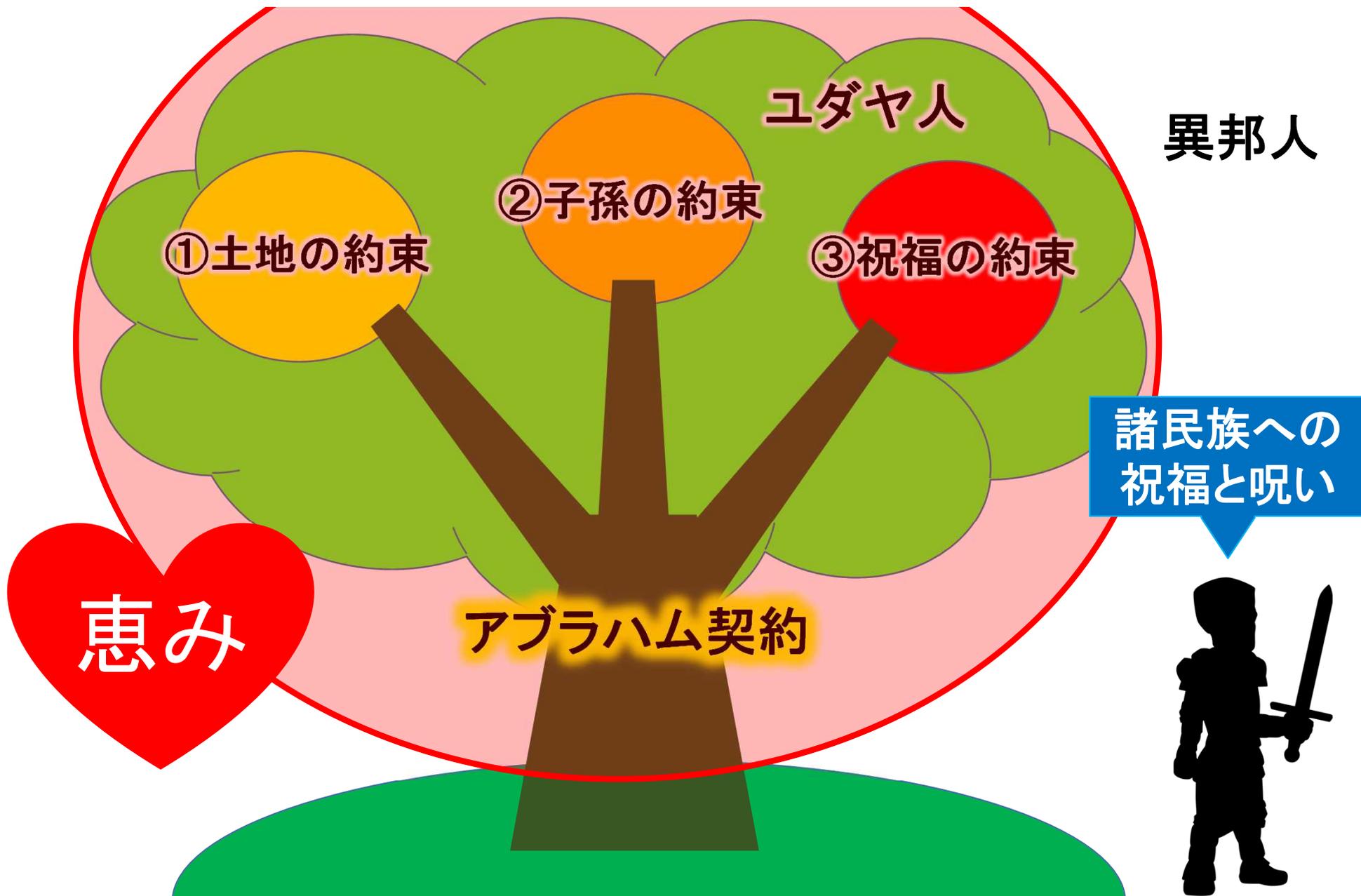
※付帯条項 ...祝福と呪い。イスラエルの生存保証。

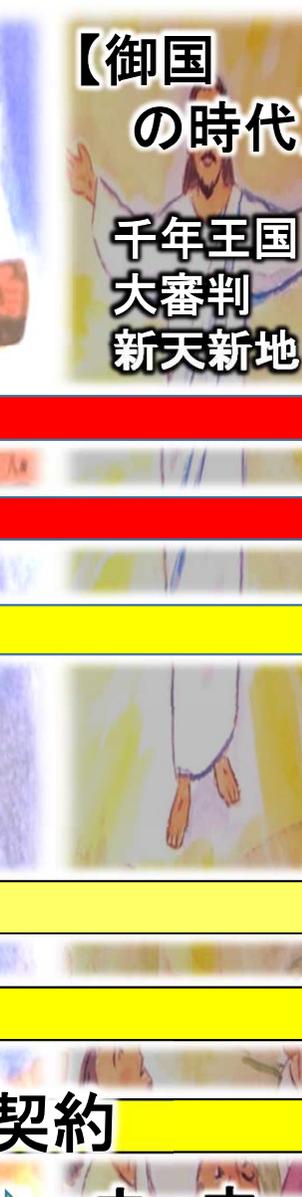
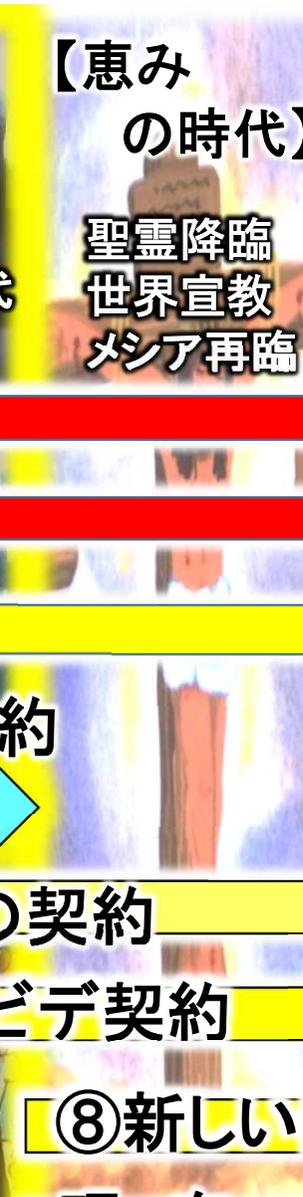
※しるし ...割礼

イスラエルを
守り導く土台



【アブラハム契約】





【無垢の時代】

【良心の時代】

【人類統治の時代】

【約束の時代】

【律法の時代】

【恵みの時代】

【御国の時代】

天地創造

墮罪
~大洪水

バベルの塔事件

アブラハム
~ヤコブ

イスラエル
王国時代
メシア初臨

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

未来

【モーセの律法 十戒とは？】

★モーセの律法(モーセ契約・シナイ契約)

- ・シナイ山で、イスラエルと結ばれた契約
- ・「十戒」がその中心 ...全部で613の条項
(出20:1～申28:68)

★モーセの律法の七つの特徴

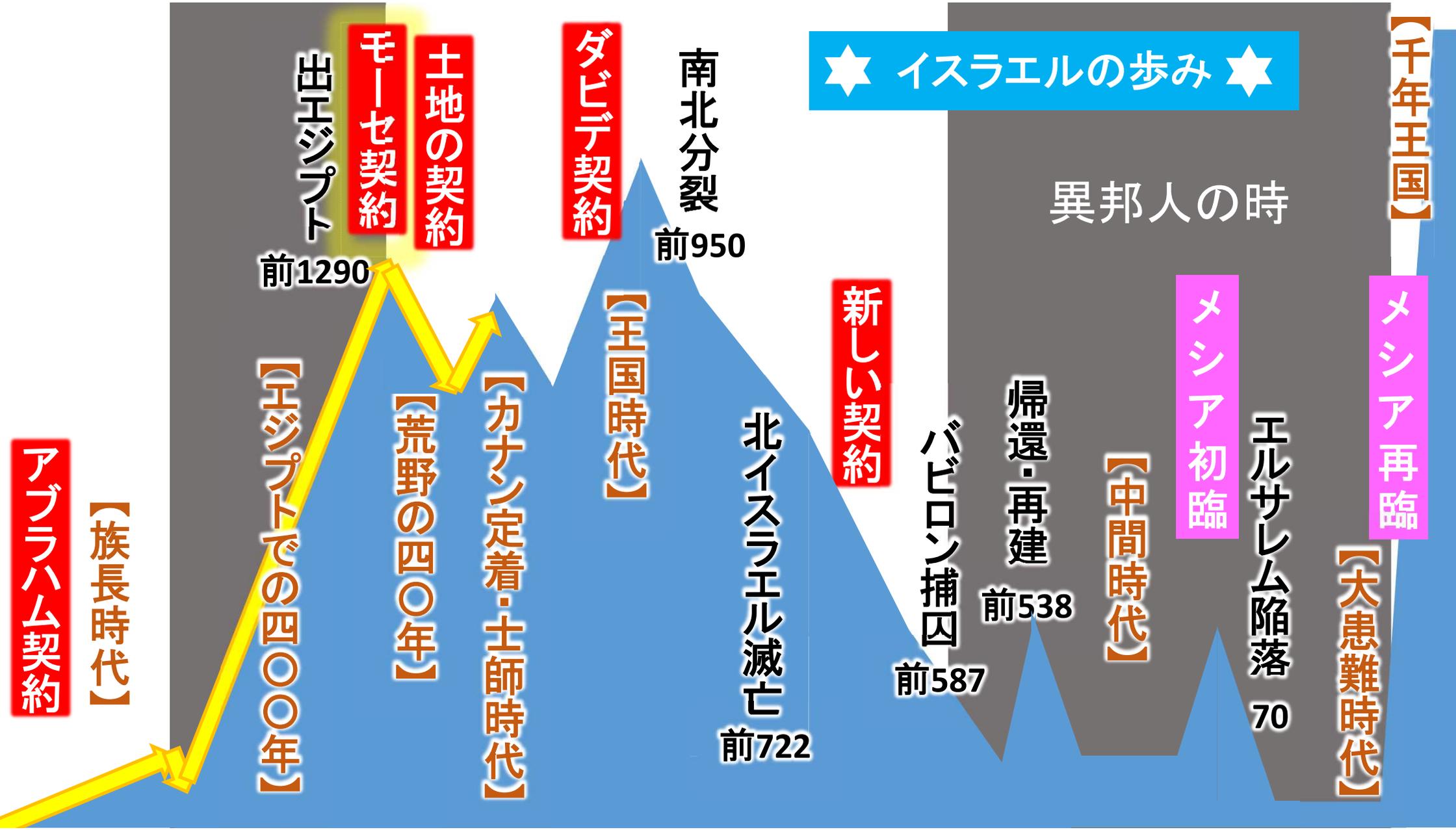
- ①救いの方法ではない。
- ②神が聖であることを示す。
- ③旧約時代の聖徒たちの行動基準である。
- ④人の罪を示す
- ⑤人にもっと罪をおかさせる力となる。
- ⑥人を信仰へと導く
- ⑦今現在は、すでに役目を終えた。



律法は、条件付き契約

従えば、祝福。破れば、呪い

★ イスラエルの歩み ★



アブラハム契約

【族長時代】

【エジプトでの四〇〇年】

前1290

出エジプト

モーセ契約

土地の契約

【荒野の四〇年】

【カナン定着・士師時代】

ダビデ契約

【王国時代】

前950

南北分裂

北イスラエル滅亡
前722

新しい契約

前587

バビロン捕囚

前538

帰還・再建

【中間時代】

メシア初臨

エルサレム陥落
70

【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】

異邦人の時

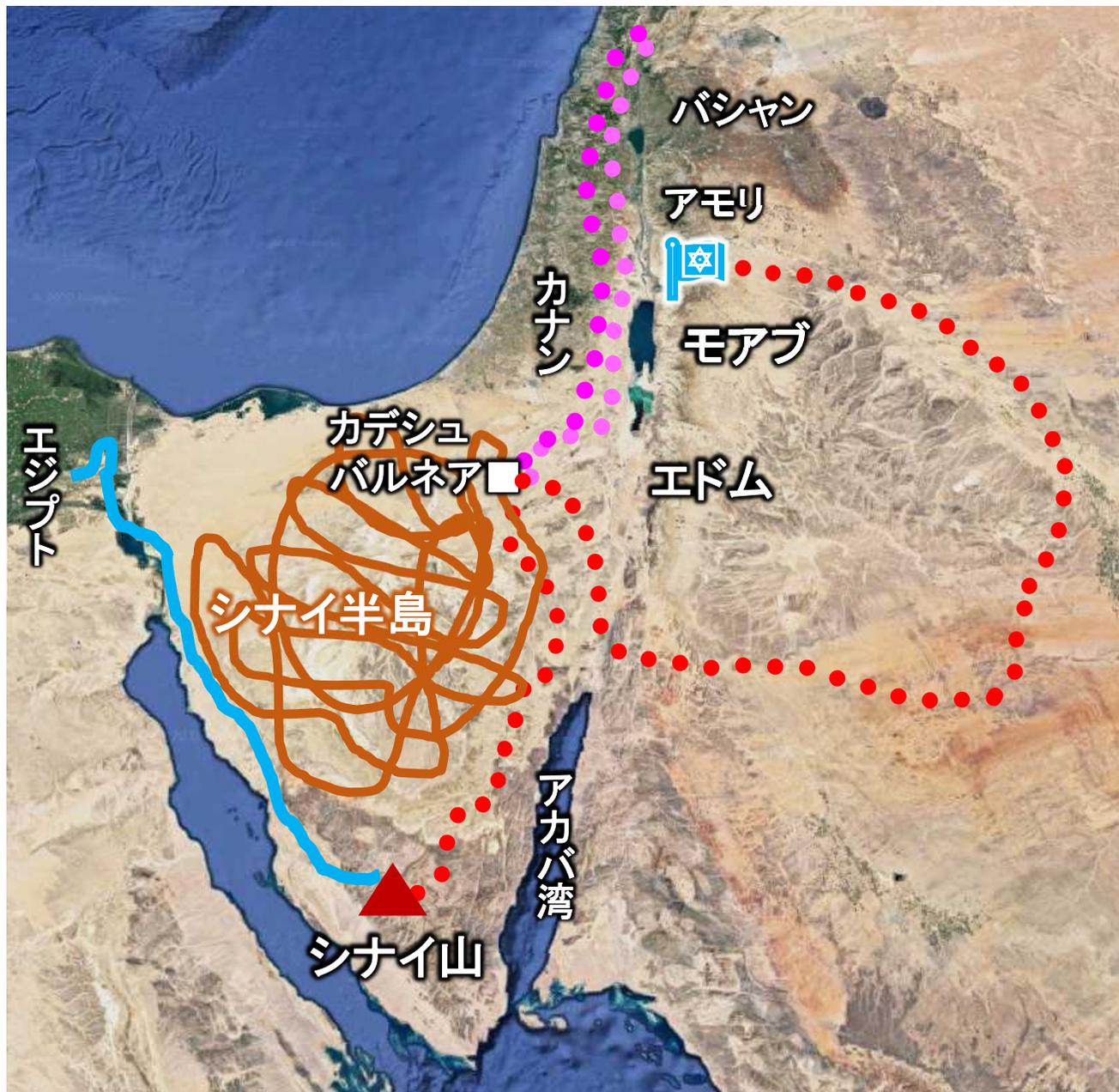
【荒野の40年】

■カデシュ・バルネア事件

イスラエルは、神に反逆し、
その世代の者は、荒野で
死に絶えることとなった。

■ エジプトから約束の地まで、
歩いて10日ほどの距離を
イスラエルは、40年放浪した。

■ ヨルダン川の東まで、
イスラエルはやってきた。



【荒野の40年を経て】

■ 38年の放浪を経て、旧世代のイスラエルは死に絶えた。信仰者カレブとヨシュアを残して。

■ 約束の地を目の前に行われた人口調査は、それぞれの部族の歩みを反映したものだだった。

■ 神は、ヨシュアを、モーセの後継者として選んだ。

第2回人口調査の結果

①ユダ	➡	76,500人	+1900
②ダン	➡	64,400人	+1700
③イッサカル	↑ _{2up}	64,300人	+9900
④ゼブルン	➡	60,500人	+3100
⑤アシエル	↑ _{4up}	53,400人	+11900
⑥マナセ	↑ _{6up}	52,700人	+20500
⑦ナフタリ	↓ _{1down}	45,400人	-8000
⑧ベニヤミン	↑ _{3up}	45,600人	+10200
⑨ルベン	↓ _{2down}	43,730人	-2770
⑩ガド	↓ _{2down}	40,500人	-5150
⑪エフライム	↓ _{1down}	32,500人	-8000
⑫シメオン	↓ _{9down}	22,200人	-37100

I. ミディアン人との戦い

民数記31章



【ミディアン人への裁き】 民数記31:1～2

【主】はモーセに告げられた。「あなたは、イスラエルの子らのために、ミディアン人に復讐を果たせ。その後で、あなたは自分の民に加えられる。」

- バアル・ペオル事件。イスラエルは、モアブとミディアンに誘惑され、性的墮落と偶像礼拝に陥った。神の裁きによる2万4千人の死は、最大のもの。
- 重罪を犯したミディアンに、神は、イスラエルを器として用いて、厳しい裁きを下された。
- 後顧の憂いを立つことが、指導者モーセの最後の大きな働きとなった。

この戦いは、「主の戦い」



【ミディアン人との戦いの概要】 民31:3～12

■ イスラエルを神が裁きの器に用いた、「**主の戦い**」

➡ **正義と主権は、あくまで神にある。**

イスラエルは、戦いの正当化を主張できない!!

■ 各部族から千名ずつ、1万2千名が招集。

祭司エルアザルの子 ピネハス* が指揮官。

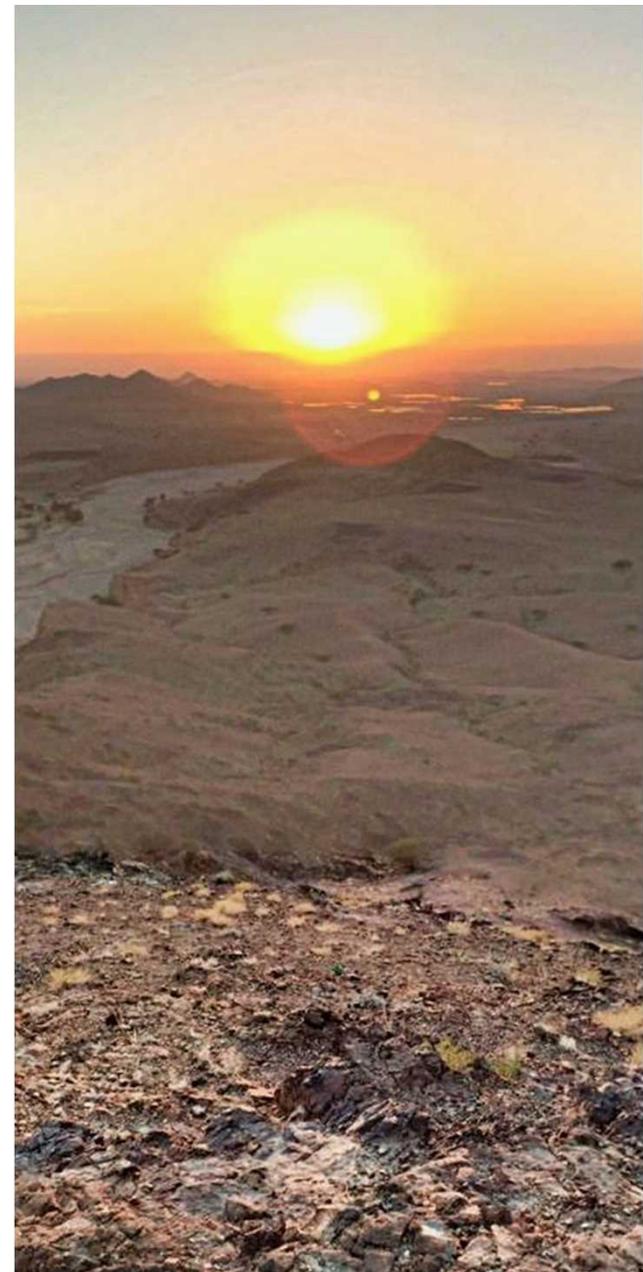
➡ * 民の前で性的・霊的姦淫を厳しく裁いた。

(民25:7～8)

■ 5人のミディアンの王と、呪術師 バラム* を討った!!

➡ * イスラエルを呪おうとし、民を誘惑させた。

■ 町々は破壊され、男たちは殺された。



【ミディアン人との戦いの後に】 民31:13～24

■ 女たちを連れ帰ったことに、モーセは激怒した。

31:16 よく聞け。この女たちが、バラムの事件の折に、ペオルの事件に関連してイスラエルの子らをそそのかし、【主】を冒瀆させた*のだ。それで主の罰が【主】の会衆の上に下ったのだ。

➡イスラエルを墮落させた女たちは、神の裁きの対象。
処女を除いて、殺された。

* 神への冒瀆は、死罪。冒瀆させた者も。律法の原則。

■ 死体に触れた者は、兵士も捕虜も、7日間のきよめの期間、宿営の外で過ごすことが求められた。



【戦利品の分配】 民31:25～47

■ 戦利品は、兵士たちと全会衆で分けられた。

① 兵士たち ...1/2を受取り、1/500を祭司に渡した。

② 全会衆 ...1/2を受取り、1/50をレビ人に渡した。

兵士 (12,000)	羊337,500 牛36,000 ろば35,000 人16,000 (一人あたり 羊28 牛3 ろば3～4 人1～2人)
全会衆 (約60万)	羊337,500 牛36,000 ろば35,000 人16,000 (一人あたり 羊1/2 牛1/16 ろば1/16 人1/38)
レビ人 (24,000)	羊6750 牛720 ろば610 人320 (一人あたり 1/3 牛1/33 ろば1/40 人1/80)
祭司	羊675 牛72 ろば61 人32



【兵士たちのささげ物】 民31:48～54

すると、軍団の指揮官たち、すなわち千人の長、百人の長たちがモーセのもとに進み出て、モーセに言った。「しもべどもは、部下の戦士たちの総数を数えました。私たちのうち一人も欠けていません。

それで、私たちは、各自が手に入れた金の飾り物、すなわち腕飾り、腕輪、指輪、耳輪、首飾りなどを【主】へのささげ物として持って来ました。【主】の前で私たち自身のための宥めとしたいのです。」

■ あれだけの戦いで、一人の犠牲者もいなかった。

神を畏れた兵士たちは、自発的に献げた。

■ ささげ物は、主の業を記念するものとなった。



Ⅱ. ルベン族・ガド族の要求

民数記32章



【ルベン族・ガド族の申し出】 民数記32:1～5

- イスラエルが、アモリ、バシヤン、ミディアンを打ち破って得た地は、牧畜には最適だった。
- ガド族(40,500人)とルベン族(43,730人)は、ヨルダン川東岸のこの地を相続地として要求した。



【モーセの叱責】 民32:6～15

32:7 どうして、イスラエルの子らの意気をくじいて、【主】
が与えてくださった地へ渡らせないようにするのか。

■ モーセは、ルベンとガドを身勝手だと厳しく叱責した。

■ 荒野の放浪は、民が、約束の地に攻め入ることに
恐れおののき、神に反逆したことが原因だった。

■ 荒野で死に絶えた旧世代が、カデシュ・バルネアで
犯した罪を、モーセは新世代に語って聞かせた。

「32:15 あなたがたが背いて主に従わないなら、主は
再びこの民をこの荒野に見捨てられる。そしてあなたが
たは、この民全体に滅びをもたらすことになるのだ。」



【確認された約束】 民32:16～42

■ ガドとルベンは、モーセに三つのことを提案した。

- 1 守りに必要な最低限の囲い場と町々(城壁)を建てる。
- 2 兵士たちは、ヨルダン川を渡り、戦いの先頭に立つ。
- 3 ヨルダン川の西岸には、土地を持たない。

■ モーセは、イスラエルの部族長たちの前で確認した。

- 1 約束の地が征服されて後、責任は解かれる。
- 2 責任を果たしてはじめて、所有権が認められる。
- 3 約束を破れば、主への罪であり、刈り取りがある。

■ マナセの半部族も、ヨルダン川東岸の一部を勝ち取り、相続地を手に入れた。



Ⅲ. 荒野の40年 回顧と警告 民数記34章



【荒野の40年の回顧】 33章

■ エジプト⇒シナイ

(民32:3～15)

■ シナイ⇒カデシュ・バルネア

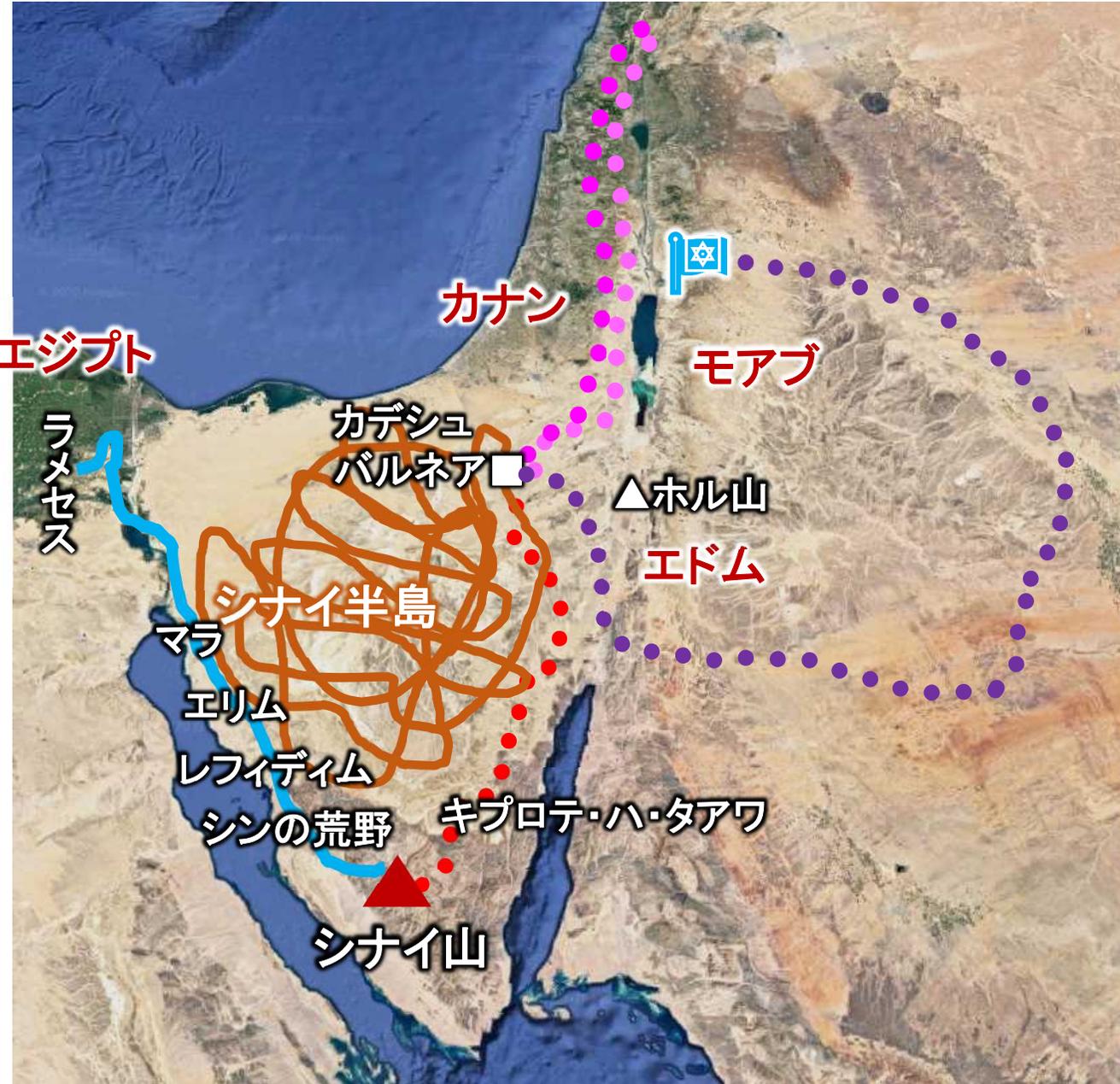
(民32:16～)

■ 38年間の放浪

(～民32:36)

■ カデシュ⇒モアブの草原

(民32:37～49)

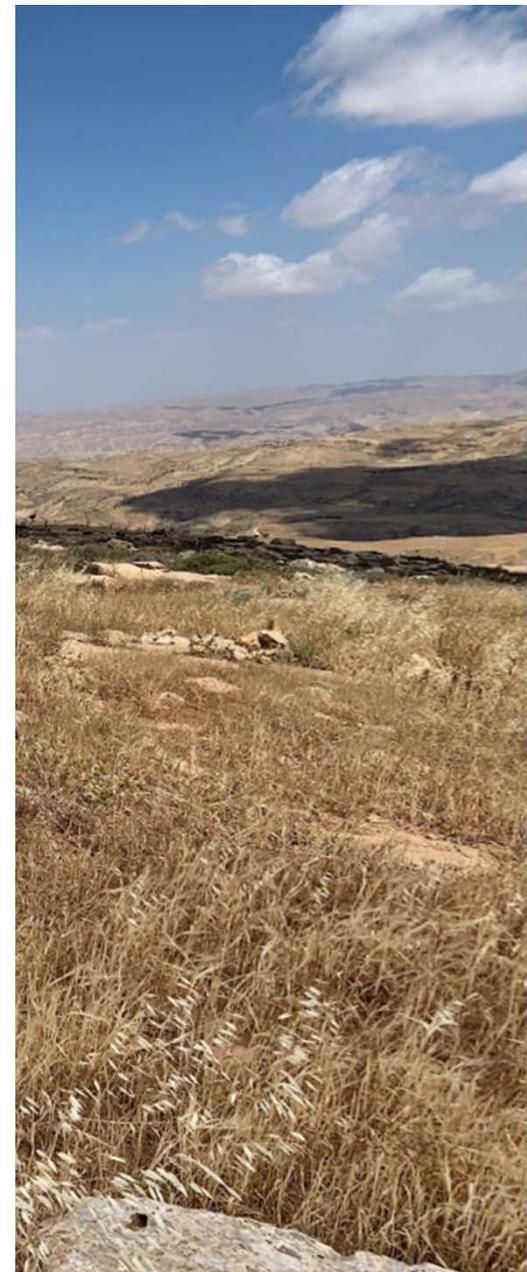


【イスラエルへの神の命令】 民33:50～52

エリコをのぞむヨルダン川のほとりのモアブの草原で、
【主】はモーセに告げられた。

「イスラエルの子らに告げよ。あなたがたがヨルダン川を渡ってカナン地に入るときには、その地の住民をことごとくあなたがたの前から追い払って、彼らの石像をすべて粉砕し、彼らの鑄像をすべて粉砕し、彼らの高き所をすべて打ち壊さなければならない。」

- 約束の地は、偶像礼拝によって汚されている。
- 神によって罪は裁かれ、きよめられなければならない。
- 神は、イスラエルを裁きの器として用いられる。
➡イスラエルには主に忠実に従う責務がある。



【神が約束し、与えた相続地】 民33:53～54

あなたがたはその地を自分の所有とし、そこに住め。あなたがたが所有するように、わたしがそれを与えたからである。あなたがたは、氏族ごとに、くじを引いて、その地を相続地とせよ。大きい部族には、その相続地を大きくし、小さい部族には、その相続地を小さくしなければならない。くじで当たったその場所が、その部族のものとなる。あなたがたは、自分の父祖の部族ごとに相続地を受けなければならない。

■部族の人口は、これまで、どれだけ主に忠実に歩んできたか、その反映。報酬は、信仰に応じて与えられる。



御国での
クリスチャンの
報酬も同様

【警告と戒め】 民33:55～56

もしその地の住民をあなたがたの前から追い払わなければ、あなたがたが残しておく者たちは、あなたがたの目のとげとなり、脇腹の茨となり、彼らはあなたがたが住むその土地であなたがたを苦しめる。

そしてわたしは、彼らに対してしようと計画したとおりを、あなたがたに対してすることになる。」

- イスラエルは、征服仕切れず、残ったカナンの民に惑わされ、墮落し、神の裁きを招くこととなる。
- 私たちの内に、残ったままの罪の性質がないだろうか。内側から信仰者を蝕む罪を、主に絶やしてもらおう。



IV. 相続地の分割

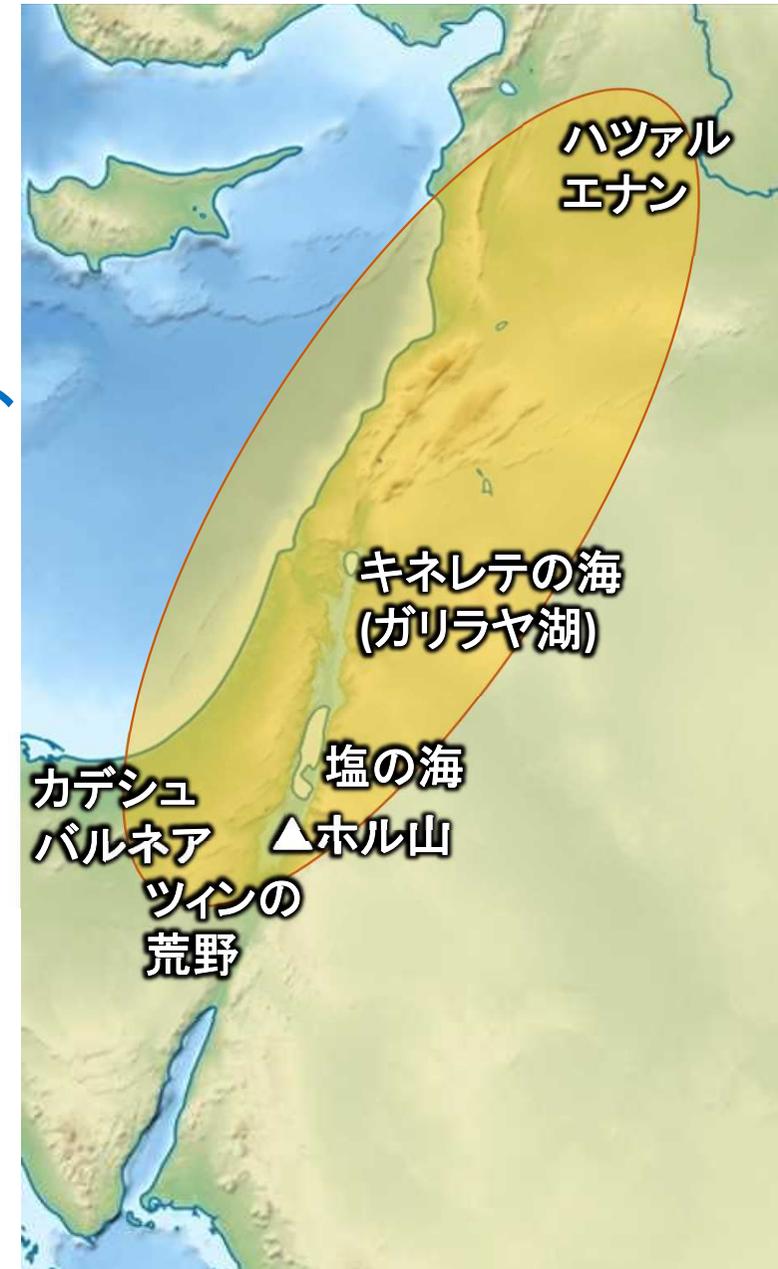
民数記34章



【荒野の40年の回顧】 民34:1 ~ 15

【主】はモーセに告げられた。「イスラエルの子らに命じて彼らに言え。あなたがたがカナンの地に入るときには、あなたがたへのゆずりとなる地、カナンの地とその境界は次のとおりである。」

- ここに記された全域を、イスラエルが手にしたことはない。ソロモンの時代にも及ばなかった。
- この後イスラエルが手にするのは、その一部。
- イスラエルが、約束の地を完全に治めるのは、
➡メシア再臨後の千年王国において!!



【土地の分割】 民数記34:16～29

【主】はモーセに告げられた。

「あなたがたにその地を相続地として受け継がせる者たちの名は、次のとおりである。すなわち、祭司エルアザルとヌンの子ヨシュア。あなたがたは、その地を受け継ぐため、それぞれの部族から族長一人ずつを選ばなければならない。」

■ 部族の族長がくじをひき、各々の相続地が定められ、分割された。

➡ 主ご自身が、相続地を定められた。

■ 主の意思が先にあり、民は歩み出して行く!!



V. レビ人の町 逃れの町 民数記35章



【レビ人への約束】 民35:1～8

35:1 エリコをのぞむヨルダン川のほとりのモアブの草原で、【主】はモーセに告げられた。

35:2「イスラエルの子らに命じ、その所有となる相続地のうちから、居住のための町々をレビ人に与えよ。」

- 相続地のないレビ人には、各部族の内に、居住地が与えられた。町の広さは、部族の地の広さに比例した。
- レビ人の町の周囲縦横900mが放牧地となった。
- レビ人の町は、全部で48。
その内、6つは、「逃れの町」と定められた。
- レビ人は、民に律法を教え、信仰の模範を求められた。



【逃れの町】 民数記35:9～28

- 逃れの町 ...過失致死を犯した殺人者が、
裁判を受けるまで避難する場所。
全イスラエルに6カ所設けられた。
- 「復讐する者」は、死んだ者の「近親者」
➡失われた家族の命を贖う責任を負っていた。
その贖いは、殺人者の命の血を流すこと。
➡**血は血によってしか贖われない(贖いの原則)**
- 逃れの町の中にいる殺人者は守られた。
➡故意の殺人者は、逃れられなかった。
- 殺人者の罪は、大祭司の死*によって恩赦。
➡**メシアの十字架の死を示す予表!!**



【証人と贖い金の規定】 民35:29～34

35:29 これらのことは、あなたがたがどこに住んでも、代々守るべき、あなたがたのさばきの掟となる。

■ 殺人の裁判には、必ず二人以上の証人が必要!!

■ 殺人者の命を金で贖ってはならない。

➡ 贖いを貶めた者は、殺されなければならない。

■ 殺人で流された血は、土地を汚す。

汚れた土地は、血でしか宥められない。

■ 私たちの住む土地は、血でけがされている。

真実にきよめることができるのは、キリストの血だけ!!

逃れの町は、
神の義と愛を示す!!



Ⅵ. 相続地についての補則

民数記36章



【問題提起】 民36:1～12

- 男子の相続者がいない場合の定めが27章。
では、ツエロフハデの娘たちが、他の部族に嫁いたら、
相続した土地は、嫁いだ部族に移ってしまうのか？

- 相続権を持つ女性は、他部族に土地が移らないよう、
同族の男性とのみ、結婚を認められることとなった。
→これを忠実に守ったのが、ナオミとルツ(ルツ記)

- 従順な娘たちに、同族の者に嫁ぐ道が開かれた。
→神からの相続地・恵みを手放してはならない。
→与えられた恵みを守ることは、信仰者の責務。



【民数記のまとめ】 民36:13

これら*は、エリコをのぞむヨルダン川のほとりのモアブの草原で、【主】がモーセを通してイスラエルの子らに命じられた命令と定めである。

(* 22章以降、新世代のイスラエルに命じられたこと。)

- シナイを旅立ち、カデシュでの背き、40年の放浪、約束の地を前にした世代交代までが、民数記の内容。
- 神の選びの民には、主への従順が常に求められる。
 - ➡ イスラエルが従うなら祝福が、背けば呪いがある。
- クリスマンにも、自ら蒔いた種の刈り取りはある。
 - ➡ 主に従い、来たるべき御国に宝を積んでいこう!!



VIII. まとめと適用

約束された恵みの前味
今この時から、味わおう!!



【荒野の40年を振り返る】

- 恵みの律法を守り通せず、神の約束を信頼仕切れなかったイスラエルは、40年の荒野の放浪をまねき、旧世代は死に絶えた。
- それでも、神の約束は変わらず、希望は新世代に引き継がれた。荒野で死んだ者たちにも、信仰による救いは、約束されている。
- 聖書の救いは、終末的救い。イスラエルが恵みをすべて味わうのは、メシア再臨後の千年王国において。
- 一方で主が、今この瞬間から味わわせてくださる恵みの前菜がある。日々、主に従い歩むことで、味わわされる驚くべき恵みがある。
➡主は、その恵みを存分に味わうように、私たちに召されている!!

【イスラエルの40年を信仰の反面教師として】 ヘブル書4:11～16

4:11 ですから、だれも、あの不従順の悪い例に倣って落伍しないように、この安息に入るように努めようではありませんか。

4:12 神のことは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄を分けるまでに刺し貫き、心の思いやはかりごとを見分けることができます。

4:13 神の御前にあらわでない被造物はありません。神の目にはすべてが裸であり、さらけ出されています。この神に対して、私たちは申し開きをするのです。

4:14 さて、私たちには、もろもろの天を通られた、神の子イエスという偉大な大祭司がおられるのですから、信仰の告白を堅く保とうではありませんか。

4:15 私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯しませんでした。すべての点において、私たちと同じように試みにあわれたのです。

4:16 ですから私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、折にかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。

【すでに与えられている救いの恵みを確認しよう】 ヘブル書4:11～16

■ 神の言葉は、すべてを露わにする。逃れられる者は一人もない。

■ すべての人は罪人であり、神の怒り、厳しい裁きを免れない。

■ 私たちの希望は、神の子、大祭司、主イエス・キリストにある。

“主イエスが、私たちの罪の贖いのために十字架で血を流され、
死んで葬られ、死を打ち破って復活された。”

■ 何の悔い改めなかった私たちのために、主が一方的に与えられた恵み、
主の前に進み出て、しっかりと受け取ろう。

➡ 信仰によってきよめられた、あなたを、主が招いてくださっている。

【おおいに主の恵みを味わうために】

■ 聖書の救いは、終末的希望。

しかし、ただ、待っている必要はない。

今からすでに味わえる、神の御国の恵みがある。

■ その恵みは、主に従い歩むただ中で、初めて味わわされるもの。

ただ、何もせずに待っているだけなら、信仰生活の喜びは薄い。

■ 今の時代に、すべての信仰者に与えられた使命に生きよう。

福音を宣言し、御言葉を解き明かすこと。

■ 神の計画への理解を深め、救いの確信と沸き上がる喜びをもって、

日々に遣わされて行こう。

「天のお父さま。

わたしは、御子(みこ)イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがな)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信(しん)じます。

モーセが切望(せつぼう)したメシアは来(こ)られ、み業(わざ)を成(な)し遂(と)げられました。信(しん)じたわたしは、主(しゅ)の途方(とほう)もない恵(めぐ)みにあずかっています。学(まな)びを深(ふか)め、確信(かくしん)を強(つよ)めていくことができますように。あふれでる喜(よろこ)びをもって、日々(ひび)に遣(つか)わされる者(もの)としてください。

主(しゅ)イエス・キリストの御名(みな)によって祈ります。

アーメン」